

と思うか、とか、OR がほんとうに役立つのはどう
いう状況をいうのかとか、どろくさい OR の推進を
やるうではないか、etc. 結局幹事会を強化し、48年
は岡山地区で行事開催を一つのポイントとして支部
活動を活発化することになった。

○48. 6. 7 研究会

テーマ 予防保全と取替問題について

尾崎 俊治(広島大学)

テーマ 預金のオンライン・システム

近藤久二啓(広島銀行)

前者は、取替問題の最近の理論をきわめて明解に
紹介され、後者は銀行のオンライン・システムを作
り上げる苦心談を紹介されたもので、理論編と実務
編とそれぞれ1時間半を有意義にすごした。

○48. 6. 18 研究会

テーマ 多種少量生産管理システム

柴川 躬行(東洋工業)

1台の工作機械が設計開始されてより出荷される
までの全過程を対象としたもので、このシステムに
は、各種事務の合理化、大日程管理、在庫管理、発
注納入管理、工程管理、工数管理などが含まれる。
問合せディスプレイ、マークシートリーダーの利用を
含め、HITAC 8300を1台専用で使用している。

○48. 6. 29 見学会

広島中央健診所における健康診断システム検査ル
ームの配置、検査結果の入力方法、などきわめてシ
ステムティックなものであった。

○48. 7. 18 講演会

演 題 Fuzzy Graph について

西田 俊夫(大阪大学)

本部の月例講演会で、Graph 理論に Fuzzy Set の
概念を導入したお話で、人間関係の表現などの事例
も紹介され、きわめてわかりやすいものであった。

○48. 9. 4 講演会

演 題 信頼による管理について

茅野 健(オーケン)

仕事に生きがいを求め、一人一人の人間が主体性
と創造性をもって働ける職場づくりのお話で深い感
銘を与えた。

○48. 10. 9 研究会

テーマ 微分方程式の数値計算——数値解法とし
ての差分法と有限要素法——

中川 友康(電力中央研究所)

従来、研究会のあと多数の参加者と同時にはつ
こんだ討議もしにくい面もあり、物たりなさを感じ
ていたので、今回は研究会終了後、参加者から有志
数名をつのり、別室で講師をかこみ意見交換を行な
った。非常に話題がはずみ、今日の試みは成功した
と考えている。

○48. 10. 12 講演会

演 題 オペレーションズ・リサーチの問題点

小野 勝次(会長)

懸案の岡山市で開催した講演会で、OR 学会の行
事としては初めての岡山であったが、100名をこえ
る盛会で、会員数はほんの数名の地でありながら会
員外の方々の OR への関心の深さがうかがえた。会
長のお話を紹介すると、まず OR の特質として最適
化を考えることとモデルで考えることをのべられた。
最適化については価値の問題にふれ、モデルに
ついては体育モデルを例に話された。また、学会の
問題として、学者と企業とが離反しないためには、
お互いに相手の立場に立って共通の土俵を作りなが
ら話をすべきで、いたづらに話をむずかしく発表し
たり、ある集団に属する人々に通ずる陰語に類する
言語を用いるのをやめるように指摘され、大きなア
イデアは分野の異なる人にもわかりやすいもの、ま
た、人間性の OR への反映を考えなくてはいけない
と結ばれた。

(権藤記)



会 合 (48年12月～49年1月)

(カッコ内は出席者数)

第5回理事会 49.1.10 (13) 議題 1. 第4回
議事録の承認 2. 49年度事業計画書の件 3. 49

年度予算書の件 4. 春季研究発表会準備委員会設
置の件 5. 定期総会の開催日時の件 6. 賛助会
員への会費値上げ連絡の件 7. 研究部会設置の件
8. 臨時総会および秋季研究発表会の報告 9. 入
退会の件 10. 会長候補者選考委員会の件 11.

49年度学術会議より派遣を希望する国際会議および派遣代表の推薦の件 12. 研究調査受託の件 13. オペレーションズ・リサーチ合同国際会議の件 14. その他

研究普及委員会 48.12.6 (11)
 IFORS 常任委員会 48.12.15 (9) ; 49.1.19 (9)
 IAOR 委員会 48.12.21 (1) ; 49.1.25 (2)
 組織強化委員会 49.1.24 (5)
 編集委員会 49.1.29 (10)
 広告委員会 49.1.30 (5)
 会計幹事会 48.12.12 (4) ; 48.12.25 (3)
 庶務幹事会 48.12.18 (8)
 編集幹事会 48.12.19 (4) ; 49.1.23 (9)
 国際幹事会 49.1.18 (2)

入退会 (48年10月29日より49年1月19日まで・1月10日 第5回理事会にて承認)

入 会

〔正会員〕

大見忠之(日立ソフトウェアエンジニアリング)・
 沖野教郎(北大)・久保 洋(北大)・五井和寛(テ
 クノ・システム)・芝野誠一(東亜燃料工業)・野田
 淳彦(東工大)・畠山亮介(九州産業大)・平野和夫
 (東亜燃料工業)・藤井 進(神戸大)・藤井良治(亜
 細亜大)・堀内久勇(天野商事)・宮野高明(京都産
 業大)・森平爽一郎(青山学院大)・渡辺浩一郎(日
 大)・井上仁幸(青木建設)・Allen Klinger (U.S.A.)

〔以上16名〕

〔学生会員〕

岩本 康(電気通信大)・折田寛彦(北大)・上浦
 原(早大)・権 泰殷(早大)・知沢清之(法政大)・
 千村宗生(明大)・能村幸彦(青山学院大)・前田裕
 千(東京電機大)・松浦和幸(早大)・村上征勝(北
 大)・山沢邦夫(明大) 〔以上11名〕

退 会

〔正会員〕

飯田雅重・池原止才夫・小山田宏洋・加藤 進・
 金子義彦・川上寿一・河村良吉・菊原静男・窪田
 城・黒河清治・佐藤秋比古・吉村 浩・馬越 滋・
 清水久二・下倉文男・鈴木道子・中田史男・西館弘
 純・林 吉郎・牧野平太郎・鈴木正和・大木紀雄・
 川崎米一・田中正雄・中村正雄・森宮隆治・菊地
 勝 〔以上27名〕

〔賛助会員〕

西村肇会計事務所・パシフィックコンサルタン
 ツ・日本放送協会放送世論調査所 〔以上3社〕

細則第8条による退会者

P. Adulbhan・S. Ashour・K. L. Arya・D. W.
 Dreier・C. J. Fraguiguid・J. N. D. Gupta・C. L.
 Hwang・W. Henderson・T. L. Jernick・G. J.
 Kelleher・T. S. Lin・J. Loa・P. L. Magga・S.
 Makridakis・I. Marin・M. D. Nasta・B. T. O'
 Donald・C. E. Pearce・V. P. Singh・H. Sabeti・
 K. K. Zamani・安 忠英・元 震喜

〔以上23名〕

IFORS・TIMS 国際会議論文募集のお知らせ

たびたびご報告いたしましたとおり、昭和50年7月には、IFORSとTIMSの国際会議が東京および京都で開催されます。この会議には海外より一流の理論家、実家が来日されて、前後約10日間、特別講演、研究発表、実例研究会(workshop)、現場討論会(field trip)、夜店式発表会(forum)など多彩な催しが計画されております。

しかし国際会議では、なんといってもよい論文が発表されることが一番です。とくにこのたびは日本が開催地で、日本オペレーションズ・リサーチ学会が主催団体ですので、会員から多数の論文発表があることが望まれます。

過去の6回のIFORS国際会議には、毎回若干の会員諸氏が参加され、よい論文を発表されてきました。このような日本の実績が、次の大会をわが国にもたらしたものといえましょう。

しかし海外での国際会議に参加することは、費用や日程の問題で必ずしも容易ではありません。したがってこの機会に、大勢の方が平素のご研鑽の成果を発表され、国際的な検舞台上で活躍なさることを期待しております。

最終的なプログラムは国際プログラム委員会の決めるところですが、IFORSには近藤が、TIMSには宮沢が委員として加わっておりますし、本学会の主張も多少は容れられるものと期待しますので、どうか今から準備されて、よい論文を多数投稿されるようお願いいたします。

IFORSとTIMSとで、その組織の性格上、多少募集の要領が違います。また国際プログラム委員会の決定によって多少の変更が行なわれるかもしれませんが、とりあえず次のスケジュールで論文を公募します。

IFORS '75

- 1) 論文アブストラクト(英語または仏語): 400語程度

- 2) 締切り: 昭和49年6月30日
3) 送付先: 日本OR学会 IFORSプログラム委員会
4) 備考: 応募論文の採否は7月31日までに通知いたします。

代表論文(2篇)は8月31日までに全文の提出をお願いいたします。

なお本件については、日本OR学会IFORSプログラム委員会にお問い合わせください。

TIMS '75

IFORS '75に続いて開催されるTIMS '75の諸準備も着々と進められています。TIMS '75では希望者は誰でも参加でき、そして論文も発表することができます。TIMS大会のプログラムは、目下ニューヨーク大学のStarr教授が委員長となって構想がたてられておりますが、大略は下記のような線に沿うことに決定しております。大会テーマ“The Time has come”の下に

- 1) National Economic Policy, Multinational Company (国家経済政策, 多国籍企業)
- 2) Game Theory Applications (ゲーム理論の応用)
- 3) Planning Models of Government and Business (政府および企業における計画モデル)
- 4) Finance (財務問題)
- 5) その他(内容は任意)

主催者として日本OR学会、TIMS日本支部でも宮沢光一教授の下で(1)~(4)はもちろんのこと、(5)でもわが国の特色を打ち出すべく計画が進められています。会員はふるって論文の発表を行なわれんことを! 発表希望者は1974年6月30日までに、アブストラクト原稿(英文400語)を提出してください。詳細は学会事務所へ問い合わせのこと。